

# 政治制度の理解を深めるための ICTを用いた討論・レビュー型学修

名取良太(関西大学)

## 本報告におけるアクティブラーニング

- アクティブラーニングの解釈
  - 主体性を引き出す能動的・自発的学習
  - 双方向型／参加型学習
  - 課題解決型学習
- アクティブラーニングの実践
  - 現実政治における問題を提示し、解決のための制度提案をさせる
  - 成績評価に結び付くような予習・復習をさせる
  - 直接コミュニケーションをとるのではなく、しかし参加型学習をさせる
  - 1対多における双方向型学習を実現可能にする仕組みを取り入れる

# アクティブラーニング実践の障壁

- 適切な「問題」を設計できるか
  - 学生が提示する「解決策」に一定の枠を設定する必要
  - 「問題」の適切さと、枠の説明が必要
- 予習と復習それぞれ自体を成績評価に反映する方法とは何か
  - 成績評価に結び付かなければ予習・復習をするモチベーション低下
  - 予習／復習それぞれ自体を成績評価の対象にする必要
- 中規模教室で直接コミュニケーションを図れるのか
  - ほぼ不可能(教室設計、モチベーションの差異)
  - 「しゃべらない」コミュニケーションの取り方を考える必要
  - グループの形成も不確定要素(欠席／遅刻、準備の差)
  - グループ分けの基準も難しい

- 1対多での双方向学習をどう設計するか
  - TAやSAのいない授業を想定
  - 特定の学生との間でのみ成立するような双方向授業は避ける必要
  - 教員側からも「しゃべらない」コミュニケーションを
- ICTを効果的に活用できるか
  - これらの障壁を、ICTを活用して解決する必要
  - システム設計と構築
  - 設計と構築のコストをだれが負担するか

# 実践した科目の概要

- 関西大学 総合情報学部
- 展開科目(3, 4年次生対象)
- 2単位
- 火曜日1時限目
- 履修者数60名程度
- 実出席者数3~40名程度
- 教室規模100人程度収容の教室(一般的な講義教室)

# 実践内容

- レポートの相互評価を実践
  - ① 課題レポート「政党・政治家の公約を具体的にさせるためのルール(制度)を提案してください」の提出
  - ② 教員によるレポートの評価
  - ③ 優秀レポートの配布
  - ④ ランダムに割り当てたレポートの配布
  - ⑤ 他者のレポートの評価
  - ⑥ 教員による相互評価の評価

※学生の希望により授業内で相互評価を実施

→課題解決型の問題を設定したレポートをめぐり、直接的コミュニケーションを介さない参加型・双方向学習の実践を目指す

学籍番号

氏名

担当レポート NO. \_\_\_\_\_ 授業に出ている者かどうか \_\_\_\_\_

評価 (140 字程度)

---

---

担当レポート NO. \_\_\_\_\_ 授業に出ている者かどうか \_\_\_\_\_

評価 (140 字程度)

---

---

自身のレポートとの比較 (140 字程度)

---

---

感想 (100 字程度)

---

---

## 実践プロセス

- 政党／候補者の政策位置に関する講義(ダウズモデル・中位投票者定理) \* 3回
- レポート執筆に関する講義(問われていること、書くべきこと、自問自答のプロセスを文章化することなど) \* 1回
  - ① 授業内容の整理／理解度を示す
  - ② 具体的にさせるための制度提案
  - ③ 制度の穴／グレーゾーンを見つける
  - ④ その問題を解決するための制度を付加(②～④を繰り返す)
  - ⑤ 理想的には、

## 実践プロセス（ICTの活用）

- オンライン（授業支援システム）上で提出
- 1ページ目は学籍番号・名前のみとし、2ページ目以降には名前を特定できる情報は載せない
- 1ページ目のみを削除したレポートへと加工
- 優秀レポート2編を取り出す
- それ以外のレポートにランダムに番号を割り振り
- レポート提出者ごとにランダムに番号を割り振り
- 番号の一致が回避できているか確認

\*\*\*\*\*以下オフライン

- 履修者に配布
- 相互評価用紙の記入と提出
- 相互評価用紙の評価

## 本実践のポイント

- ICTを活用(授業支援システムの整備と強化)
- 優秀レポートの配布による双方向性の担保
- 「しゃべらない」コミュニケーションを図る(参加型)
- 他者のレポート評価を通じた、自己の振り返りを可能に
- レポートの作成を事実上の「予習」と位置付ける
- 他者評価を「復習」と位置付ける

## 学生の感想

- 自分の担当したレポートは、論点がずれたものだったので残念だった。明らかに趣旨を間違えてるレポートは、外した方が良いのでは。
- 他者の文章を読み触れることは、自分の文章が読まれた時のことを想像することにつながる。卒論やレポートを書くにあたって勉強になるため、このような機会は貴重である。
- 優秀なレポートを読むことで、非常に参考になった。
- 今回の取り組みは、周りがどのようなレポートを提出しているか、周りの人はどのような切り口で論じているか、また優秀なレポートではどのように論じられているかを知ることができ、とても面白かった。次回以降のレポート執筆においても参考になると思う。

- 自分の考えと違っている部分を見ると、ここはこうではないのか？と議論したくなったので、意見交換をしてみたいな、と感じた。
- 自分絵は考えなかったものや、自分ならここはこうするなどの考えが持てるので、この試みは良いと考えている。
- 自分のレポートとの着目点の違いがわかるのはとても面白かったし、表現の方法にしてもいろいろあるのだと感じた。
- 普段、他の人のレポートを目にする機会などないので、自分のレポートを客観的に評価することが難しかった。
- 今回のように他人のレポートを評価してみて、他人のレポートの良い点、悪い点を探すうちに、自らのレポートの改善点や話を広げる点を考えるようになり良かった。

- 情報(授業)の受け取り方は、人によって大きな差異があるものだと分かった。また、他人には本人と共通の文脈を有していないので、レポートでは行間を読ませるのではなく、行間を埋めることで正確な理解に結び付くことがわかった。
- どのような文章が読みやすく、分かりやすいのか、客観的に見れて良かった。自分の考えをうまく文章にできず、羅列しているだけだと思った。優秀なレポートは圧倒的に文字数も多く、読む前から勝負がついていると感じた。
- 自分の間違いに気が付くことができたので勉強になりました。
- またやりたいかと聞かれればやりたくないのだが、一回限りならありだと感じた。

- 人の書いた文章を読むというのは新鮮で、自分にとって刺激になった。レポートを書くだけでなく、人に見てもらおうという緊張感もあった。
- 優秀なレポートを読み、文字数は内容と比例するなと感じました。

## 課題

- すべてのプロセスについてのオンライン化
- 双方向性をいかに強化するか
- 能動的／自発的学習の要素が少ない
- 相互評価のフィードバックの確保
- 評価を踏まえたレポートの再提出は可能か（15回の授業では限界）
- アクティブラーニングの「効果」をどう測定するか？（授業内容の理解、授業への取り組み方向上、文章力強化etc...）